

ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに第107期第2四半期（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の営業の概要と決算の状況につきましてご報告申し上げます。

当中間会計期間におけるわが国の経済は、震災の影響により一時大きく落ち込みましたが、サプライチェーンの復旧による生産水準の回復や消費マインドの持ち直しから回復基調にありました。当行の営業区域内の景気動向についても、震災の影響で大幅に悪化したしましたが、供給制約の解消により製造業、特に輸送用機械が景気回復を牽引し、小売・サービス業などの非製造業も復興需要や家計マインドに改善傾向があり、全体として持ち直しの動きが続いてきました。しかし、財政危機に揺れる欧州の債務問題及び景気停滞感が強まっている米国経済などの影響による長引く円高により、経済情勢の先行きの不透明感が増してきました。

このような経済状況のもと当行は、「雨でも傘をさし続ける銀行」として、中小企業の皆様等への円滑な資金供給や経営改善支援などのコンサルティング機能の発揮に努め、地域とお客様の発展のため役職員が一丸となって取組んでまいりました。

その結果、当行の第107期第2四半期決算は、靴底を減らす活動でお客様回りを徹底したことにより、預貸金が順調に増加したことで、本業の収益を示すコア業務純益は52億円を計上することができました。また、お客様のニーズの把握による適切な資金応需に努めた結果、中小企業向け貸出を中心とした貸出金の増加等により資金利益が順調に増加したことから、経常利益は57億円、中間純利益は41億円を計上することができました。その結果、コア業務純益、経常利益及び中間純利益は、いずれも中間期として、過去最高益となりました。

当行は平成21年10月に平成24年3月までの2年半を計画期間とする経営強化計画「プランフェニックスⅡ」を策定し、「地域から頼られる銀行」を目指して、役職員が一丸となって地域とお客様の発展のため全力で取組んでおります。第107期は、経営強化計画の最終期であります。第2四半期決算の順調な実績から、経営強化計画の通期最終目標であるコア業務純益101億円の達成が十分見込める状況となっております。さらに、経営強化計画の取組み以降、貸出先数も順調に増加し、平成23年9月期までの2年間で712先の大幅な増加を図ることができました。

平成23年度下期の景気動向は、持ち直しの動きが続いているものの、海外経済の減速の影響などから、そのペースは緩やかになっております。日本経済の先行きについても、復興関連の需要増加に支えられ回復軌道を進るものと考えられますが、欧州財政問題による金融市場の混乱から、海外経済のさらなる減速懸念による長引く円高の影響等、景気を下押しするリスクが存在し、経済情勢が不透明な状況にあります。

こうした状況の中でも当行は、地域金融機関として、いままで以上に「靴底を減らす活動」でお客様回りを徹底しつつ、お客様に役立つよう「傘」の内容を変化させながら、今後も「雨でも傘をさし続ける銀行」を標榜し、中小企業の皆様等への円滑な資金供給をはじめ、経営相談会やビジネス交流会等の継続的な開催によりお客様の事業発展意欲に応えるとともに、海外進出等を計画するお客様に対しては情報提供、相談等を積極的に展開してまいります。当行は、今後も地域密着型金融（リレーションシップバンキング）を徹底し、お客様との関係を強化しつつ、本業に役立つ事業支援や経営改善支援へ積極的に取組み、地域経済の活性化に貢献する等、地域とお客様の発展に全力で取組んでまいりますので、変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



平成24年1月

株式会社東和銀行
代表取締役頭取

吉永國光